

～自分や家族を想定して防災を考え、行動するためのきっかけづくり～ 親子で考える防災ツール「そなえるドリル」を開発

防災をもっと身近に、ホームページで一般公開

三菱地所レジデンス株式会社は、これまで管理会社の三菱地所コミュニティと協働し、マンションの防災活動（防災計画策定・防災訓練実施）のサポートを継続的に行ってきましたが、今般、大人だけでなく子どもにも防災を身近な事柄として考え、行動につなげてもらうため、親子で考える防災ツール「そなえるドリル」を開発しました。

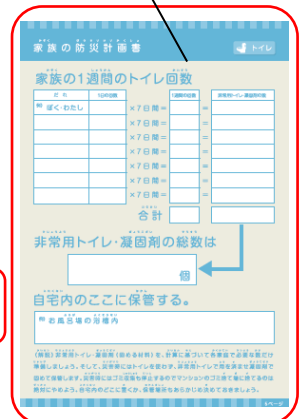
また、三菱地所グループ物件の防災訓練等で活用している「そなえるカルタ」も、「そなえるドリル」の公開に合わせて、2017年9月1日から「ザ・パークハウス防災プログラム」ホームページ上でどなたでもダウンロードが可能となります。[\(http://www.mecsumai.com/bousai/\)](http://www.mecsumai.com/bousai/)

家族と一緒に考えて、
オリジナルの防災計画書となる

<「そなえるドリル」4つの特長>

- ① 子どもが取り組みやすい身近な内容で考えられる
- ② 自分や家族のことを実際に書き込める
- ③ 大人を巻き込み、親子や家族単位で想定する
- ④ 足りない備品や家族の決めごとを共有できる

自分の生活をイメージして
実際に書く



▲新しく開発した防災ツール「そなえるドリル」

当社では、マンション居住者へ防災ツール「そなえるカルタ」を活用し、東日本大震災の生の声を届けています。2016年に発生した熊本地震の事例も新たに「そなえるカルタ」に追加し、今後居住者に届けていく予定です。

本取り組みを通じて、マンション居住者が新たな気付きを得るきっかけづくりの提供や災害への備えを進めていますが、その行動を更に広げるため、今般、親子で考える防災ツール「そなえるドリル」を開発しました。



▲「そなえるカルタ」熊本版

子どもの学びを起点に、大人を巻き込む「そなえるドリル」は、家族ぐるみで具体的な行動につなげることが可能です。「子どもの取り組みやすさ」「コミュニケーションのしやすさ」の観点から、2015年9月に防災協定を結んだ学校法人自由学園と協働で開発しています。

今後は、マンションの防災備品を活用した訓練において「そなえるドリル」を利用するほか、小学生向け防災ワークショップや学校法人自由学園の防災授業等で活用予定です。

1. 「そなえるドリル」について



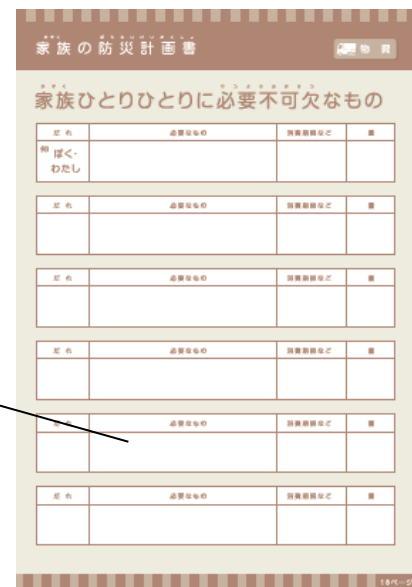
(1) “無人島生活”という、子どもが興味を持つ内容から、生活に何が必要か思い浮かべる。

(2) 子どもが災害時の生活をイメージする。メガネなど自分にとって必要なものを把握する。



(3) 自分だけではなく、家族1人ひとりが必要となるものを一緒に考える。

(4) 行動につながるように、家族の防災計画書をつくり、家族で情報共有。

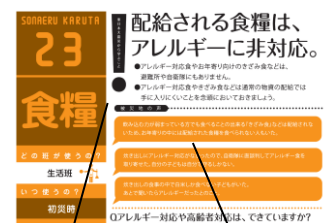


2. 「そなえるカルタ」について

東日本大震災・熊本地震等で実際に困ったことを、「トイレ」「食糧」「情報」といった切り口で、マンション居住者に届けています。表面にテーマごとのあるべき行動指針、裏面に現地で起こった実際の状況を示しています。

<3つの特長>

- ① 東日本大震災や熊本地震での生活者目線の声を届ける
- ② 生活で実際に困った様々なことが分かる
- ③ カード形状の特性を活かして、興味を持った内容から取り組める



平常時では意外と被災時のことが想像できていないと実感した。

配給される食糧がアレルギーに非対応。言われてみればその通り。

災害時はトイレが大きな問題になることを知らなかった。さっそく凝固剤を買いに行こうと思います。

<「そなえるカルタ」利用者の声>



避難所は大幅に足りなくなります。
 ●自治体によって指定避難所が限定されています。
 ●避難生活を営む上での情報や物資が確保されています。
 ●中学校など公民館が避難所に指定されていますが、すでにキャパシティがいっぱいになり、避難所を収容しきれないことが予想されます。

被災生活は小学校や避難所で過ごすものと思っていた。

漠然と想像していたものがカルタを通じて具体的に知ることが出来た。



災害時でも我慢できないのがトイレ。
 ●近所に山や空き地がなく、暮らした建物に建つ一部のマンション、賃貸物件についてトイレがない、またはトイレが壊れている。
 ●マンショントイレは、全住民で使うことは想定されています。

0水が使えずトイレが流せない時の対策、どうしますか?

3. 三菱地所レジデンス「防災倶楽部」の取り組み

三菱地所グループでは、1923年に発生した関東大震災以降、約90年にわたり大規模な防災訓練を実施しており、グループ全体で防災・減災に取り組んでいます。2014年にマンション管理組合の防災組織・訓練を進化・深化することを目的に、三菱地所レジデンスの社員有志によるボランティア組織「三菱地所グループの防災倶楽部」を立ち上げ、現在約100名が活動しています。これまでに約50物件の防災訓練・防災学習・イベントに協力し、トイレを備えておくことの重要性の説明、マンホールトイレ組立訓練やワークショップなどをサポートしました。

今後も三菱地所グループ物件の更なる防災力強化を目指してまいります。

<2016年度以降の訓練サポート実績>

※2014年の発足以降、2017年8月28日現在 計13,479世帯、52物件で実施。

2016年4月10日	ザ・パークハウス 上北沢	67戸
2016年4月17日	ザ・パークハウス 津田沼奏の杜	721戸
2016年4月23日	ザ・パークハウス 阿倍野三丁目	99戸
2016年5月29日	ザ・パークハウス ステージ 武蔵小金井	79戸
2016年6月4日	世田谷ハウス(社宅)	
2016年6月19日	ザ・パークハウス 浦和上木崎	49戸
2016年7月10日	ザ・パークハウス ステージ 武蔵小金井	79戸
2016年7月24日	ザ・パークハウス 所沢	312戸
2016年7月30日	ザ・パークハウス 大宮氷川参道	73戸
2016年7月31日	ザ・パークハウス グラン 三番町	148戸
2016年8月21日	ザ・パークハウス 津田沼奏の杜(キッズ防災イベント)	721戸
2016年9月3日	学校法人 自由学園 防災学習(第4回 女子部)	
2016年9月11日	ザ・パークハウス 祇園レジデンス	141戸
2016年9月25日	ザ・パークハウス 横浜新子安ガーデン	497戸
2016年10月2日	W Comfort Towers	1149戸
2016年10月16日	ザ・パークハウス 新川崎	134戸
2016年10月16日	ザ・パークハウス 上鷺宮	261戸
2016年10月22日	ザ・パークハウス 白金	30戸
2016年10月23日	MID OASIS TOWERS	716戸
2016年10月29日	ザ・パークハウス 追浜	709戸
2016年11月12日	BELISTAタワー福島	161戸
2016年11月20日	ザ・パークハウス 上野	132戸
2016年12月10日	ザ・パークハウス 新宿タワー	298戸
2017年1月14日	ザ・パークハウス 津田沼奏の杜(サッカー×防災)	721戸
2017年1月28日	ザ・パークハウス 天神橋1丁目	84戸
2017年1月29日	ザ・パークハウス 武蔵野中町	140戸
2017年3月5日	ザ・パークハウス 津田沼奏の杜	721戸
2017年3月5日	ザ・レジデンス津田沼奏の杜	869戸
2017年3月5日	ザ・パークハウス 津田沼奏の杜テラス	62戸
2017年3月9日	学校法人 自由学園 防災学習(第5回 大学部)	
2017年3月12日	ザ・パークハウス 愛宕(福岡)	27戸
2017年3月26日	ザ・パークハウス 宮崎台ガーデン	75戸
2017年5月14日	ザ・パークハウス 所沢	312戸
2017年6月4日	ザ・パークハウス 四谷若葉レジデンス	67戸
2017年6月17日	ザ・パークハウス 大宮氷川参道	73戸

(参考) ザ・パークハウスの防災プログラム HP : <http://www.mecsumai.com/bousai/>

■マンションでの防災訓練メニュー例

① 安否確認&避難訓練

各マンションオリジナルの防災ルールを定めた「防災計画書」に従い、安否確認フローを確認。安否確認シートを住戸毎の扉に貼り出し、あらかじめ定めた担当者が各住戸の安否確認情報を収集する訓練。



② マンホールトイレ組み立て訓練

実際に体を動かして、防災倉庫に備えられているマンホールトイレを組み立てる。また、建物の仕組みを理解し、設置するマンホールの場所を確認。更にマンホールトイレが使えないことも想定し、凝固剤の使用体験を行う。



③ エレベーター閉じ込め・階段避難車訓練

災害時のエレベーター閉じ込め体験。エレベーターが使えないケースも想定し、階段を降りることが困難な方を乗せて安全に降りることができる階段避難車の体験訓練。



④ バルコニー避難パーテーション蹴破り訓練

自分の力で蹴破れない場合、家の中にある鍋やペットボトルで破れるのか、どのくらいの力が必要か、どのように割れるのかを実際に体験する訓練。



■子どもと取り組む防災訓練メニュー例

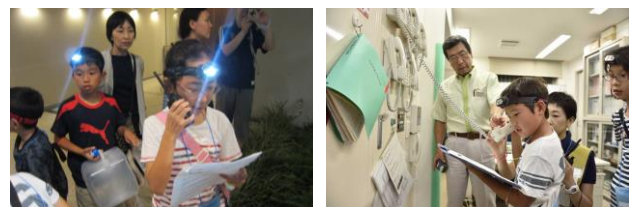
① ツナ缶ランプ作り訓練

夜間の災害を想定し、自宅にある身近なツナ缶を使って簡易ランプ作りの訓練。



② 夜間安否確認訓練

帰宅困難により大人が不在の際も、安否情報を収集できるよう、子ども主体による防災備品の無線機を利用した安否確認訓練。館内放送も実際に体験。



③ サッカー教室・防災ゲーム

サッカーや体を動かすことに興味のある人が集まり、ゲームの中で防災を学ぶイベント。スポーツを通して居住者間の距離も縮まる。

